定例署長会議における公安委員会委員長　訓辞

令和８年11月11日（水）

神奈川県公安委員会委員長の外郎藤右衛門です。定例警察署長会議開催にあたり、一言、申し述べを致します。

まず始めに、神奈川県警察官、職員の皆様方は県民の平穏な暮らしのために、日夜職務に励んで頂いていること、そして本日お集まりの警察署長をはじめとする幹部の皆様方は、その責任者として陣頭で指揮を取りご尽力頂いていることに、公安委員会を代表して、深く敬意を表し、また感謝を申し上げます。

さて治安情勢は、サイバー攻撃が全国的に猛威をふるう中、県下においても匿流による強盗、特殊詐欺、そして人身安全関連事案への対応など予断を許さず、交通死亡事故も10月末現在、全国ワースト１位となるなど、県警察は、事件・事故、自然災害、また相談業務など、大変幅広い業務に対して的確に対応しなければなりません。県警察の果たすべき役割と責任は増大し、県民の警察に対する期待も、ますます増しているところであります。

しかし先日、長年に亘る運転免許証の個人情報の不適切な取り扱いが発覚し、またもや県民の信頼を損ねることになりました。

４月のこの場で、県民の信頼を回復するために職務執行において基本的に意識してもらいたい言葉を、３つ述べました。

一つ目は警察の権威。権威は県民の信頼において維持されるもの。

二つ目は使命感と責任感のバランス。職務執行において使命感だけでなく、警察官として、その言葉や行動が社会的にどう影響するか、責任感を持つということ。

三つ目がコミュニケーション。コミュニケーションをもっと良くして、組織の内外で意思疎通を高めていただき、人材の育成と組織力の強化をお願いしました。

これらを踏まえ、本日は皆さんに二つのことを強く求めます。

一つ目は、「風通しの良い職場環境の実現」についてです。
７ヶ月間、現場の最高責任者である皆様方の率先した行動を見聞きして参りました。多くの幹部の皆様は、その責務をしっかり遂行していただいていると承知しておりますが、特に、現場の声を良く聞いていただき、真摯にその提言、助言に目を向けてください。
治安維持活動を本務とする上意下達の組織ですが、日常業務においては、上に立つ人は部下と目線を合わせる、報告を自室や自席で受けるだけでなく現場に赴くなど、これまで以上に心掛け、部下や若い人が意見を言い易い、風通しの良い職場環境を実現してください。
さらに、幹部の皆様はもっと他部署の業務運営や状況に関心を持ち、意見交換を重ね組織の活性化を図っていただきたいと思います。

二つ目は、「時代の変化に対応した、日々の業務点検」についてです。
少子高齢化の中で、「優秀な人材確保」と「業務改革」は警察組織において最重要課題です。社会は驚くほど変化が加速しており、ＤＸ化やＡＩの活用が進んでいます。県警察の業務もＤＸ化を進めておりますが、警察職員の意識、行動も変わらなければなりません。まずは幹部の皆様が、変わることから始めてください。そして、これまで当たり前に行っていた業務が、時代に即しているのか、見直しや改善、効率化ができているのか、情報の管理や共有が適切に行われているのか、それぞれの部署で日々点検を励行してください。

私ども公安委員会も、引き続き県民目線に立って、県警察の機能が十分に発揮できるように、最善を尽くしていく所存です。
結びにあたり、神奈川県警察の更なる発展と、地域社会の安全安心がますます向上すること、そして本日御列席の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げて、私の訓辞といたします。